

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7期第6回相模原市中央区区民会議小委員会 (グループ3)		
事務局 (担当課)		中央区役所区政策課 電話042-769-9802 (直通)		
開催日時		令和5年8月22日(火) 14時00分～16時00分		
開催場所		東淵野辺2丁目市民緑地、相模原市立博物館		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)		
	その他	1人		
	事務局	3人(区政策課職員)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		開 会 1 視察 2 勉強会 閉 会		
会議結果概要		<p>■「都市の自然を次世代につなげるまちづくり」 中央区内の自然環境の現状と課題等を確認するため、東淵野辺2丁目市民緑地の視察を行った。また、博物館において「地域のオリジナルを見出そう」というテーマで勉強会を開催した。</p> <p>■「地域ネットワークの充実」 要望書(案)を各委員に配布し、10月2日までに確認することとした。</p>		

■視察

東淵野辺 2 丁目市民緑地へ到着後、山口委員の案内により視察を行なった。

主な内容は次のとおり。

- ・当緑地には地権者が 5 人いて、維持管理を行うアダプトの 15 人にも含まれているため、樹木の下枝等の維持管理が自由にできている。
- ・適正な維持管理を行うことで、風通しや水はけも良くなり、蚊の発生も抑えられている。
- ・4 月～11 月は月に 2 回（10 日、25 日）、12 月～3 月は月 1 回（15 日）に集まり維持管理を行っている。
- ・近隣の子どもたちが自由に自然と触れ合うことができる貴重な場となっている。
- ・当緑地内には、鎌倉時代に人々が鎌倉を目指す際に使われた「鎌倉道」が残っている。

■勉強会

視察後、市立博物館 2 階実習実験室にて秋山学芸員が講師となり勉強会を行った。

主な質問等については以下のとおり。

【主な質問等】

○外来種は繁殖力が高いと思うが遺伝子的にそうなっているのか。（坂本委員）

→例えば 16 号線沿いの環境はももとの環境ではない。アスファルトが敷かれた環境は大陸の砂漠の環境に似ている。乾燥地帯に生育していた生き物が入ってきたことにより、生体にあつたため繁殖力が旺盛に見える。数多の外来種が入ってきているが環境に合わないため定着していないのも多い。また、外来種は天敵がいない中で入ってきている。在来生物は天敵がおり、調整されている。たとえば蜂は芋虫を食べる。蜂がいなくなれば芋虫が多くなり、葉が食べられてしまう。外来種は天敵がいないところに入ってくるため、見かけ上繁殖力が旺盛に見える。

○東淵野辺 2 丁目市民緑地の入口に黄色いコスモスのようなものが生えている。誰かが 2、3 年ほど前に種をまいた。昨年はほとんど生殖しなかったが今年はとても増えた。駆除したほうがいいのか。（山口委員）

→話を聞く限りではオオキンケイギクという特定外来種だと思う。広がる力が強く他の植物を淘汰してしまうため、早めに抜いた方がいい。似た花で、コスモスの一種でキバナコスモスという種もあるが、旺盛な増殖力はない。

○イチョウの木は天然の防火壁といわれるが、葉が青いときには水分が多いと思うが、葉が黄色くなった時にはどうなるのか。イチョウの葉が落ちてると油で滑ることがあり、かえって燃えてしまうのではないか。（坂本委員）

→イチョウがもともと火事が広まったというのは聞かない。油といっても我々が使用している油とは成分が違い可燃性ではないと思う。

○老木になると炭酸同化作用が弱くなり二酸化炭素を発生しやすいというのは本当か。（坂本委員）

→事実である。そうすると寿命を迎え老衰のような状態になるため、あまり心配する必要はないかと思う。

○中央区には田名など緑が豊かなところもあるが、多くのところが緑地、自然環境が少ない。本日視察に行った東淵野辺 2 丁目市民緑地は地域の方が管理しているから残っている。あつという間に緑地が開発されてしまう中で、少しでも自然を残し、生物多様性を保つていこうと考えているが、新たに緑地を増やすというのは区民一人一人では難しいと思う。そのため、庭やベランダのような小さなところでも自然を豊かにしていくことを繋げていくというのは一人一人が取り組めることと考えている。庭やベランダで育てる際に中央区ならではの植物や花があれば啓発し、選定理由を聞かれた際にも伝えることが出来ると思うが、そういったものはあるか。（斎藤委員）

→都市には都市の緑の残し方がある。生物多様性原理主義のようになってしまうと受け入れ

られなくなってしまう人が出てしまう。我々は生き物を扱っているのが在来種にこだわることを言えるが、個人の方たちに自宅の庭に外来種を植えてはいけないと言うことはできない。基本的には好きなものを植えて緑を増やしましょうというのがいい。例えば在来種の木を植えると瞬く間に大きくなってしまふことが多く管理できなくなってしまう。本日視察に行った東淵野辺2丁目市民緑地にはおそらく樹齢100年近いけやきがあったが、そういった見上げるような大きな木については緑地で残す。一方で、庭には比較的昔から日本で庭木として栽培されている木を中心に植えるのがいい。どの種類がいいかというのは難しく、風通し、日当たりや美環境によって変わってくる。例えばマユミという在来種は真っ赤な実がなるものがあり、アケビの蔓が巻いてあると実がなる。他にはカラスウリは今の時期には夜に白い花が咲くので庭で楽しむには面白い。在来種を使った庭造りで考えられるものはあるが、日当たり等の話が出てきてしまうため、一概に言えないものがある。

○そういったものをアドバイスしてくれる方がいればいいと思う。(斎藤委員)

○今、家で稲を発泡スチロール2つで飼育している。近隣の子どもがこれは何かと親に聞くと、都会からきている方はわからない。また、8月の中下旬には稲に白い花が咲くがこの花については多くの方が知らない。田んぼではあまり見ることが出来ないが発泡スチロールで育てると見ることが出来る。2つの発泡スチロールで育てているが1つは鳥に食べさせる、もう1つは神棚にあげるために育てている。(山口委員)

→稲をポット苗で育てるのはいい。面白いもので1年目からトンボが卵を産みに来る。今日見た緑地で素晴らしいと思ったのは、鎌倉道があったこと。また、すぐ裏にある段丘は素晴らしい。このような地形をみんなに見せていくことがいい。

○田名の望地や河岸段丘をしっかりと守っていかなければならないと思う。都市計画審議会の中でも麓を市街地に編入する話が出ており、そうすると守り切れなくなってしまう。一方でヒバリは昔からいて、残していきたいと思うものの中央区の補給廠のところはともかく、「さがみっばら」がどんどん無くなっており、残していくことは原理的に難しいという気もしてくる。そのような中で市の鳥をヒバリじゃないものにするのか、若しくは補給廠のように唯一になりそうな自然を残していくのか悩ましいと思いつながり話を聞いていた。歴史のある木や鳥以外の植物や生物を相模原市のシンボルとして新しい時代に向けて考えていくべきなのか、古いものを大事にしていくべきという路線をとるのか考えてしまったのでご意見を伺いたい。(飯島会長)

→ヒバリに関しては一種のノスタルジーだと思う。やはり「さがみっばら」という高度経済成長期にどんどん消えてしまった環境を象徴するものである。これは非常に大きな問題提起で今後のシンボルをどうしていくかという中で、私個人としてこれがいいとおすすめできるものがあるが、あとはどうフォーカスしていくかだと思う。

○ヒバリを人工的に飼うことはできないのか。(坂本委員)

→難しい。相模川沿いの河川敷が最後まで残ると思っているので、そこはヒバリの生息地としては安泰だろうと思っている。

○ヒバリは私の小さいころはたくさんいたが今はほとんどいない。小さいころヒバリの巣を探すのにヒバリはまっすぐ上がっていくため、まっすぐ上がったところを探すのが見つからない。ヒバリは頭がよく、歩いて巣から離れたところから飛び上がる。(山口委員)

→ヒバリの生態を考えたとても貴重なものである。

○庭に植生を残すことは大事だが難しい問題があり、手入れをしていた方が亡くなってしまうと切らざるを得ない。(坂本委員)

→手入れを含めて引き受けられるかというところが求められてしまうので、あまり無責任に木を植えて、と言えない。

○私の実家でも柿の木があったが、亡くなった時に手入れせずにトラブルとなり最終的に切ってもらった。緑地で残すのが一番いい。(坂本委員)

○今回のような話をグループ内だけではなく、全体の中でも知ってもらいたい話。地域や個々の家庭でも非常に貴重な話になっているかと思う。ぜひ地域でこういった話を聞ける機会を増やしていくことが重要だと感じた。(事務局)

■「地域ネットワークの充実」

事務局にて作成した要望書(案)を委員へ配布し、内容に修正等あれば10月2日までに事務局へ連絡するよう依頼した。

以 上

第7期第6回相模原市中央区区民会議小委員会（グループ3） 委員出欠席名簿

No.	氏 名	所 属 等	出欠席
1	飯 島 泰 裕	学識経験者（青山学院大学）	出席
2	斎 藤 奈 美	特定非営利法人さがみはら環境活動ネットワーク会議	出席
3	坂 本 洋 三	相模原市地区社会福祉協議会中央区連絡会	出席
4	代 田 修	田名地区まちづくり会議	出席
5	丹 波 晴 道	清新地区まちづくり会議	出席
6	原 田 克 也	一般社団法人相模原市医師会	欠席
7	森 田 麻 里 子	公募委員	出席
8	八 木 貴 弘	公益社団法人相模原青年会議所	欠席
9	山 口 信 郎	大野北地区まちづくり会議	出席

第7期第6回相模原市中央区区民会議小委員会（グループ3） その他出席者名簿

	所属・役職	氏 名
1	博物館・総括副主幹	秋山 幸也